

新漁業管理制度推進情報提供事業

山田 秀樹・堀 恭子・伊藤 毅史・吉田 幸史

玄海地区沿岸漁業で漁獲される資源管理対象魚種等（重要水産資源）について、生物情報や操業情報を収集分析し、資源管理指針・方針及び資源管理計画・協定の見直し・策定のため、関係者に情報提供した。

方 法

1 漁況情報収集

マアジ、マサバ、マイワシ等の重要浮魚類の漁況を把握するため、唐津港（唐津港まき網市場と唐津沿岸物市場）取扱量、主要定置網による水揚量について情報収集した。

なお、唐津港取扱量のうち、「県内」は本県漁業者による水揚量、「県外」は他の市場等からの陸送物に、県外漁業者による水揚量を加えたものとした。

また、「主要定置網」とは玄海地区を代表する定置網4カ統（高島大敷、村張大敷、大泊大敷、宮岬大敷）とした。

さらに、広域種の資源管理を目的とした情報収集のため、水揚実態調査として、トラフグの沖合延縄漁業による水揚量を、漁協仕切書により情報収集した。

2 漁海況情報の提供

漁況情報収集結果及び海況調査結果を取りまとめ、漁海況情報として、漁業協同組合等の関係機関に提供した。

結 果

1 漁況情報収集

（1）マアジ

唐津港取扱量は7,209トンで、前年比91%、平年比（平成29年度～令和3年度の5年間平均値、以下同じ）90%であった。県内水揚量は218トンで、前年比49%、平年比56%であった。定置網による水揚量は222トンで、前年比35%、平年比43%であった（図1）。

（2）マサバ

唐津港取扱量は4,486トンで、前年比64%、平年比59%であった。県内漁獲量は71トンで、前年比52%、平年比90%であった。定置網による水揚量は54トンで、前

年比56%、平年比93%であった（図2）。

（3）マイワシ

唐津港取扱量は1,185トンで、前年比123%、平年比485%であった。県内水揚量は3トンで、前年比145%、平年比102%であった。定置網による水揚量は1トンで、前年比52%、平年比37%であった（図3）。

（4）ウルメイワシ

県内水揚量は0.1トンで、前年比2%、平年比5%であった。定置網による水揚量は0.1トンで、前年比1%、平年比3%であった（図4）。

（5）カタクチイワシ

県内水揚量は4トンで、前年比68%、平年比10%であった。定置網による水揚量は4トンで、前年比67%、平年比10%であった。中型まき網による水揚は無かった。（図5）。

（6）スルメイカ

唐津港取扱量は67トンで、前年比41%、平年比49%であった。県内水揚量は3トンで、前年比36%、平年比30%であった。定置網による水揚量は1トンで、前年比80%、平年比25%であった（図6）。

（7）ケンサキイカ

唐津港取扱量は46トンで、前年比62%、平年比56%であった。県内水揚量は45トンで、前年比61%、平年比67%であった。定置網による水揚量は2トンで、前年比31%、平年比34%であった（図7）。

（8）ブリ

定置網による水揚量は24トンで、前年比137%、平年比94%であった（図8）。

（9）トビウオ類

定置網による水揚量は2トンで、前年比113%、平年比56%であった（図9）。

(10) トラフグ

沖合延縄漁業による水揚量は1.6トンで、前年比87%、
 平年比70%であった（図10）。

2 漁海況情報の提供

令和4年4月から令和5年3月にかけて、各月1回、
 計12回、漁海況情報を発行した。

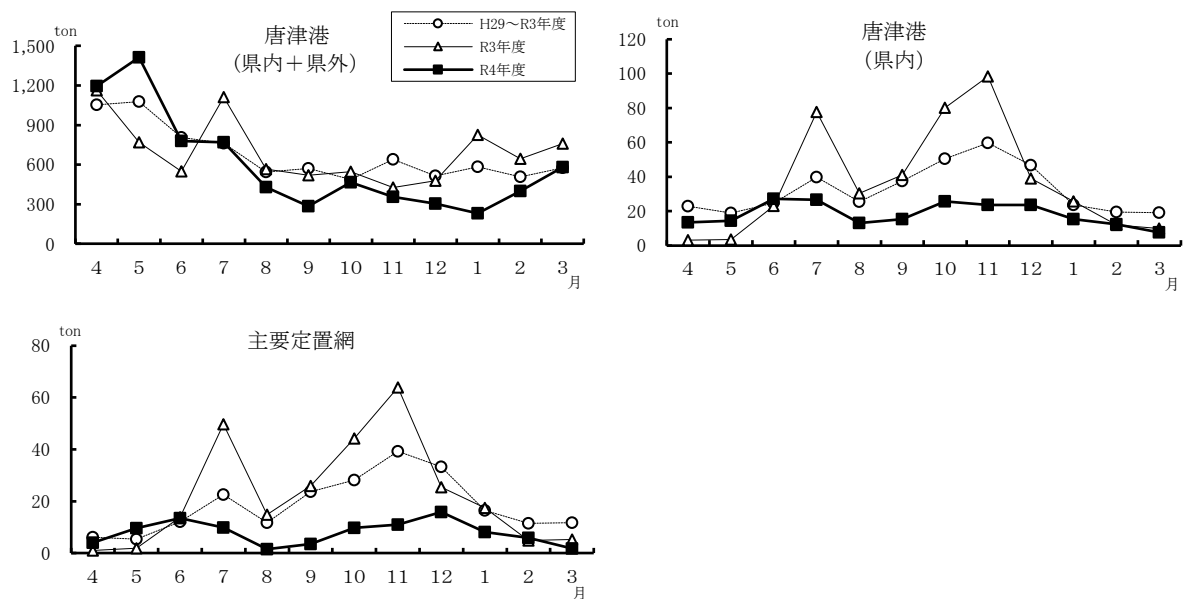


図1 マアジ水揚量の推移

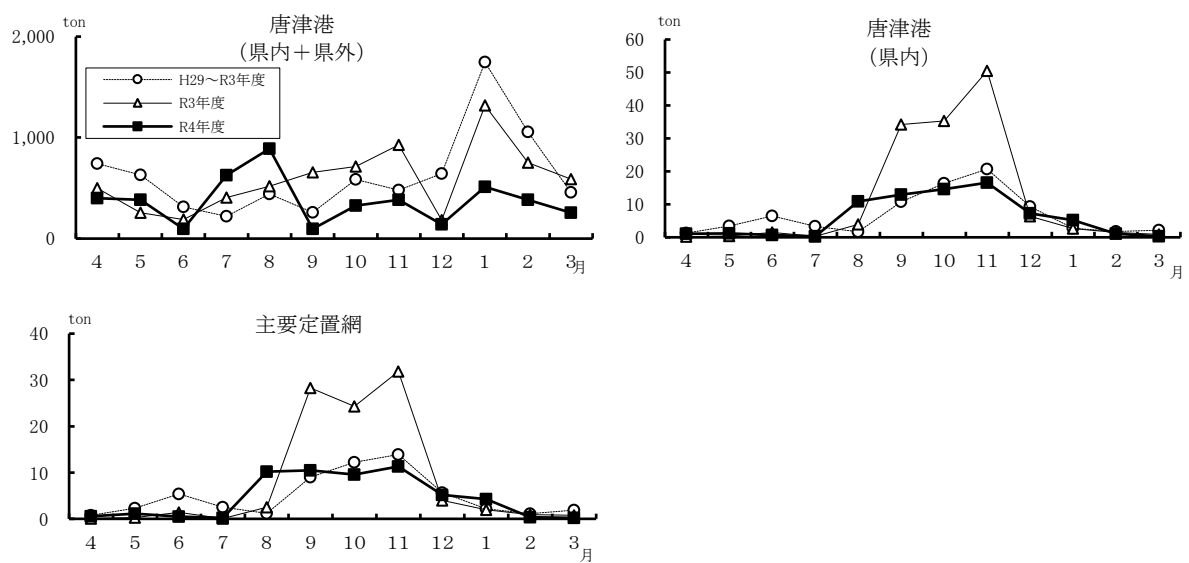


図2 マサバ水揚量の推移

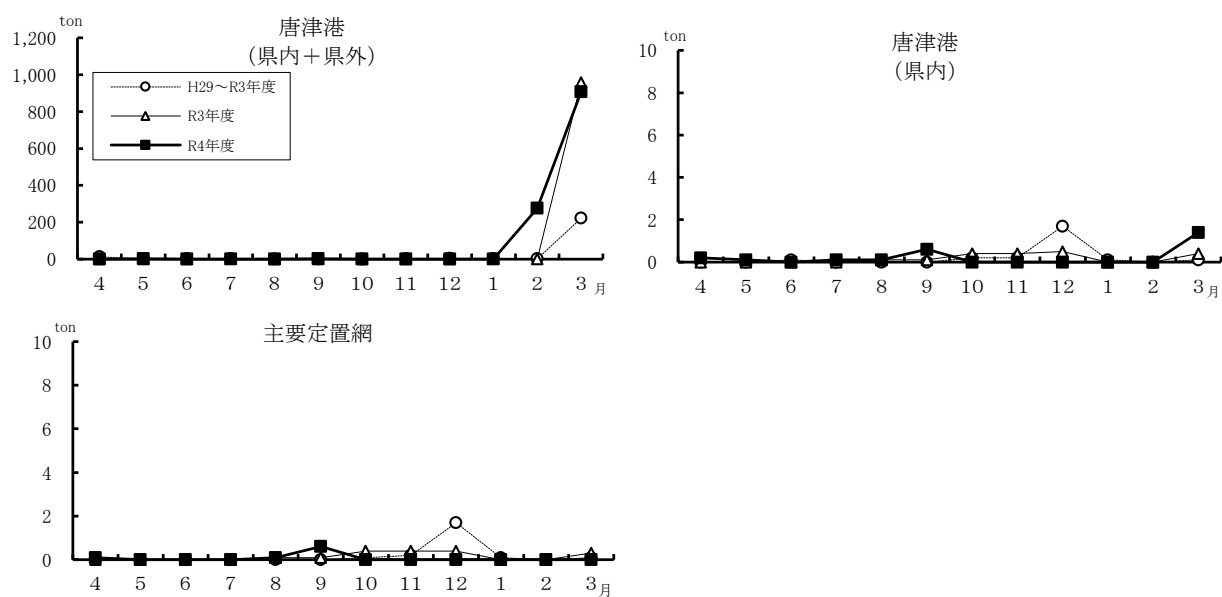


図3 マイワシ水揚量の推移

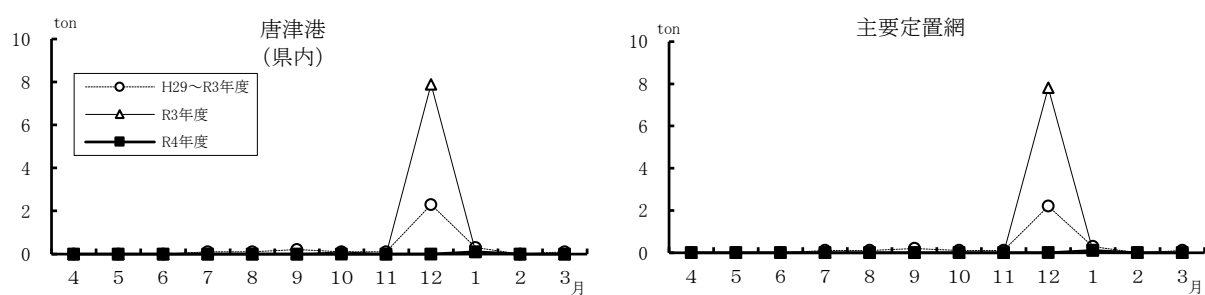


図4 ウルメイワシ水揚量の推移

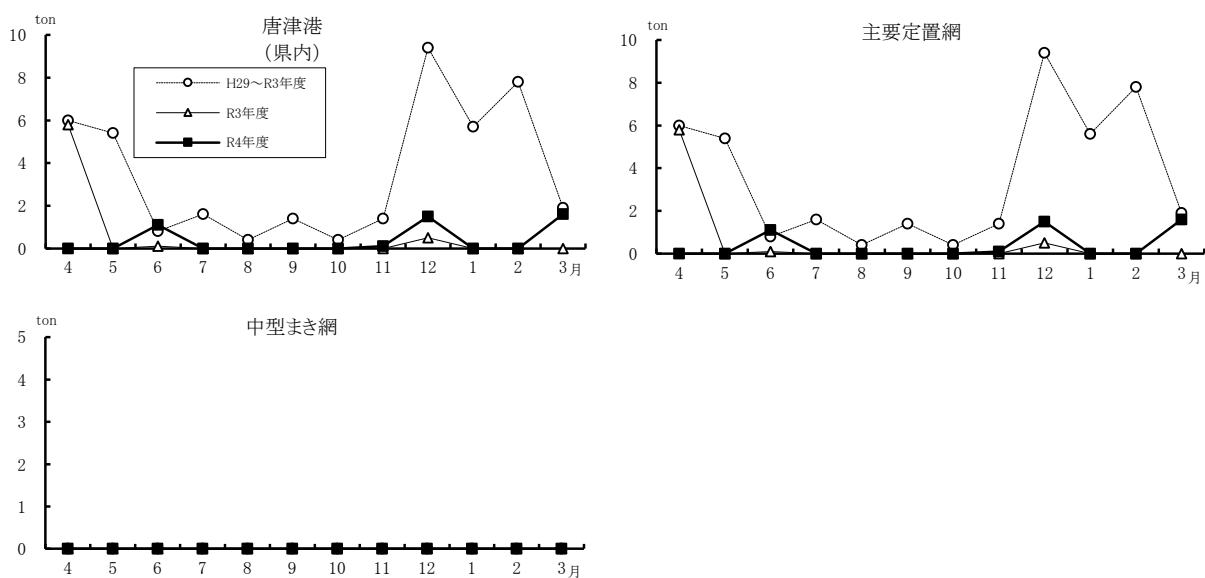


図5 カタクチイワシ水揚量の推移

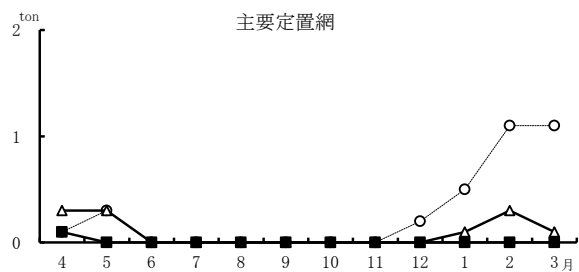
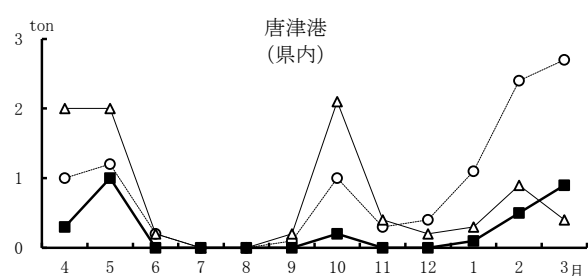
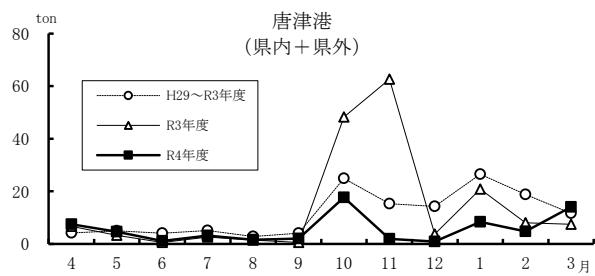


図6 スルメイカ水揚量の推移

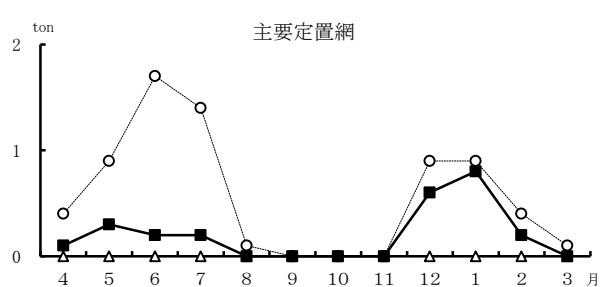
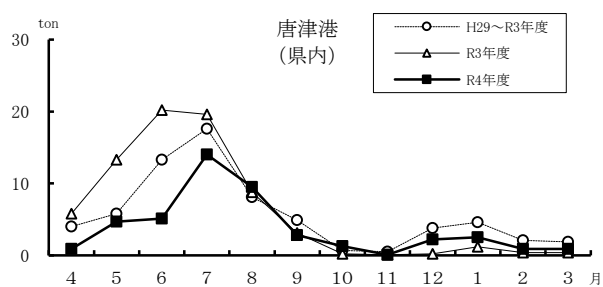


図7 ケンサキイカ水揚量の推移

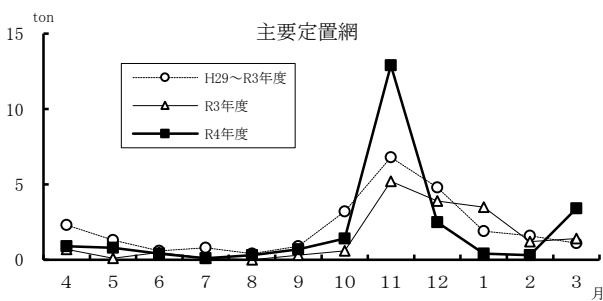


図8 ブリ水揚量の推移

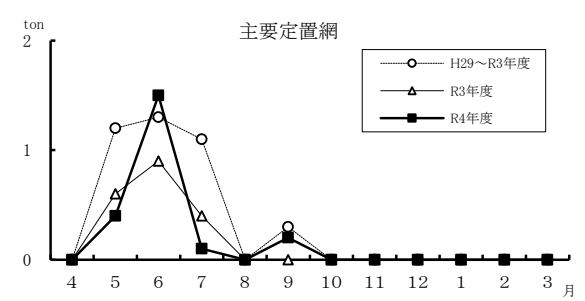


図9 トビウオ類水揚量の推移

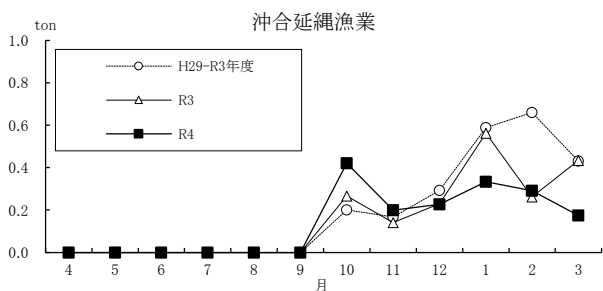


図10 トラフグ水揚量の推移